

仙北市地域おこし協力隊第1号 **尾崎美由紀さん**



尾崎美由紀 (32歳) Miyuki Ozaki

北海道生まれ九州育ち。最近の趣味は枝豆の成長を見守ること。仙北市に来て1番最初に覚えた言葉は酒席での「練習しました」。週に3日は田沢湖の写真撮っている「田沢湖愛好家」の顔も持つ。

平成27年9月に仙北市初の地域おこし協力隊となった尾崎美由紀さん。もうすぐ2年が経過しようとしていますが、田沢湖を拠点に活動している尾崎さんは、市民として定住することを目指しており、今ではすっかり地域住民とも顔なじみです。また、9月には新たにNPO法人を設立することです。

「目的は『働く人たちのストレスケア』を企業研修として商品化し、仙北市の観光地としてのチカラを活かしながら、休耕農地の対応策や若者にとっても働きがいのある仕事づくりに取り組もうとするものです。これまで農作業イベントやヨガイベント、仙台市の企業を仙北市で迎えてモニターツアーを実施するなど、アンケートを聴取しながら新たな事業構想を練ってきました。NPO法人を通じて、自分の定住だけでなく、首都圏から仙北市を訪れる人や移住者が増えることを願い、これからも未来に向かって走り続けたい」と、尾崎さんは力強く話しました。



「ヨガイベント」男性限定のヨガクラスを実施。



【仙台市の企業を招いたモニターツアー】田沢ながいもの収穫体験。



尾崎さん(左)と4人目の仙北市地域おこし協力隊として着任したばかりの折笠靖子さん(右)。2人はすっかり打ち解けていました。

内陸線沿線のPRを図る

4人目地域おこし協力隊
折笠靖子さんが着任



内陸線の活性化を担当する折笠靖子さん。

仙北市で4人目となる地域おこし協力隊の折笠靖子さんが7月3日、着任しました。現在は、田沢湖庁舎の企画政策課に籍を置いて、秋田内陸線沿線の魅力発信、活性化などに取り組んでいます。

折笠さんは埼玉県出身。協力隊として着任前は、仙台市の大型スーパーの社員として勤務していました。昨年9月に初めて仙北市を訪れた際、雄大な自然などに魅力を感じたそうです。6月下旬に仙北市へ引越し、内陸線に乗車して車窓からの景色を楽しみました。折笠さんは「まずは何が自分のできるか考え、情報収集にあたりたい。内陸線各駅周辺を自転車でまわり、活性化につながることをまとめて提案していきたい」と目を輝かせていました。

台北市商業デザイン
関連高校が訪問実習

台湾の台北市を中心とする商業デザイン関連高校の生徒17人が台北市教育局の主催による事業で、7月4日から7日にかけて仙北市を訪れました。7月4日は、角館町の「アート&クラフト香月」を訪問。富岡浩樹代表取締役社長から、榊細工についての話を聞きました。生徒たちは、陳列されている榊細工の商品を撮影したり、伝統工芸の奥深さに触れたりしていました。その後、市内の農家民宿やホテルに宿泊しながら、ポスターなどの制作活動をしました。



展示された榊細工の商品を興味深げに見学する生徒たち。

田沢湖マウンテンバイクフェスティバル 2017 Coupe du Japon MTB たざわ湖

7月16日・17日の両日、たざわ湖スキー場と田沢湖スポーツセンターの敷地内を会場に、田沢湖MTB(マウンテンバイク)フェスティバルが開催されました。同地での開催は、2008年以来9年ぶりとなり、年間レース「Coupe du Japon MTB」の男女「ダウンヒル第3戦」と同「クロスカントリー第4戦」に、全国から延べ190人がエントリーしました。16日は大雨の中、ダウンヒルが行われ、選手たちは特設コースを豪快に駆け下りてタイムを競いました。17日は穏やかな天候のもと、クロスカントリーが開催され、アップダウンの4.6kmにわたる周回コースで選手たちの激しいレースが繰り広げられました。



16日に開催されたダウンヒル。大雨の中、泥まみれになりながらも、選手たちは猛烈なスピードで坂を下って行きました。



17日に開催されたクロスカントリー。アップダウンの激しい周回コースを全力で駆け抜ける選手たち。